

ドナルド・トランプ氏が米国の第45代大統領に就任して1年半。「アメリカ第一主義」を唱えるその姿勢には今も批判が絶えないが、前任のオバマ大統領に比べ、「力」を前面に出した政策で、中国や北朝鮮を対話路線に引き出したとの評価もある。西原正平和・安全保障研究所理事長(元防衛大学校長)に、トランプ大統領の「力」による平和政策を分析してもらった。



貿易を非難する一方女性、同性愛者や移民への配慮は冷たく、価値観の相いれないロシアのプーチン大統領との親密さを示す。トランプ氏は米國を頼りにしてきた世界の多くの人にとって失望であり不安でもある。しかし、本当にトランプ

「力の空白」を作ったのは誰だ

トランプ大統領は前任の

トランプ政権下で再生した「力」による平和

西原 正氏 平和・安全保障研究所理事長

トランプ政権の「米國第一」主義

トランプ大統領の資質や外交戦略を批判する声が大きくなっている。DTP(環太平洋パートナーシップ協定)の脱退、英国のEU脱退支持、NATO同盟国防

衛費分担率、とくにドイツの低分担率への公然非難、対中貿易関税競争の仕掛け、米國のイラン核合意からの脱退と対イラン制裁再開、プーチン大統領に不評な異議を唱え、米韓合同軍事演習の一方的中止、移民流入規制強化など、枚挙にいとまがない。これが自由世界のリーダーとしての米國大統領たるべき行動なのかと、多くの米國人も批判的である。

最近では米國の新聞社約400社が揃ってトランプのメディア敵視に対する批判を一言に行った。トランプはほとんどなく、逆に自由

トランプ大統領は、ツイッターで氏をそう見るべきだろう。品性に欠ける発言をするなか、トランプ氏への多くの批判は理解できるが、トランプ氏がふたたび強い米國大統領とは異質のリーダーで迎えるべきではないのか。世ある。トランプ氏は大統領を築こうとしているのは、伝統的な米國の価値観である「自由、人権、民主主義」を口にするか、第一」と叫ぶのは耳障り

オバマ大統領から多くの紛争問題を引き継いだ。オバマ氏がこれらの問題で強い姿勢をとらなかつたこと

2014年3月、ロシアが、事実上の自國軍の占領下にあったクリミアの「独立を承認し、自國に編入したが、オバマ政権は

2017年4月、トランプ氏はアサド政権が化学兵器を使用した事

トランプ氏は前任者が残した「力」による平和を実現した。

阻止する効果的な手を打たなかった。また中国は国際仲裁裁判所が「南シナ海の岩礁は中国領ではない」と裁定したにも拘わらず、自國領だと主張したばかりか、造成して人工島とし、その上に軍事施設を整備した。オバマ政権はこれにも反対はしたが、それを牽制する意味で「航行の自由作戦」(米艦艇に南シナ海を航行させて中国の領海ではないことを意図する海上活動)を実施しただけであつた。

これに対して、トランプ大統領は「力」による平和を強調する。2017年4月、トランプ氏はアサド政権が化学兵器を使用した事

トランプ氏は前任者が残した「力」による平和を実現した。

2面に続く